

田中

たなか

さやか

<https://tanakasayaka.seikatsusha.me> REPORT

品川・生活者ネットワークニュース No.136 [西部版]

発行：品川・生活者ネットワーク 発行責任者：井上八重子

発行日：2023年3月15日 〒142-0043 品川区二葉 1-10-11

TEL:03-5751-7105 FAX:03-5751-7106

Eメール：shinagawa@seikatsusha.net <https://shinagawa.seikatsusha.me>



■品川・生活者ネットワーク田中さやかの活動を紹介します。



プロフィール

田中さやか たなか・さやか

■1982東京都目黒区生まれ(40歳)。都立南高等学校(現都立美原高校)卒。アパレル会社でアルバイト■2008長女を出産。東日本大震災を機に原発都民投票の署名集めや放射能から子どもを守る会等に参加、SNSで発信を始める■2012大飯原発再稼働反対官邸前行動に娘と参加し共同通信に取り上げられる■2015長男を出産。同年4月品川区議会議員に初当選。会派：品川・生活者ネットワーク政調会長として活動開始■2019品川区議会議員2期目をスタート。総務委員会、文教委員会、議会改革ICT推進会議等委員■2022会派幹事長

●趣味：写真(被写体は自然や子どもたち)、読書●家族：夫・娘(中学2年)・息子(小学2年)・保護猫2匹●小山在住



私らしく 生きるための 政治

コロナ感染症に次ぐウクライナ危機を背景に貧困・格差が顕在化する中、雇用悪化・物価高騰が追い打ちをかけています。それまで潜在化していた問題・課題や制度・政策の不備・矛盾と向き合い、解決に導くことができる新しい政治が求められています。

多様な人々が、互いの個性を大切にしながら協調して暮らす持続可能な社会を築くために、税金の使途と世代を超えて共生するルールを決めることが、政治の果すべき役割です。自己責任とは対極にある、安心の子育て・介護・医療、住まいや教育を誰もが享受できる、そういう地域社会を品川から実現したい！

田中さやかは、「私らしく生きるための政治」をスローガンに掲げ、誰もがつながり支えあうまち・品川をめざして、3期目に挑戦します。

生活者ネットワークは、東京都内34の自治体があり、都議、市・区議あわせて41人の女性議員をもつ地域政党です。

山口二郎

法政大学教授/立憲デモクラシーの会共同代表

地域から生活者のための政治を実現するネットワーク運動が始まって、46年以上たちました。政治の世界には挫折や後戻りがありますが、これまでにできたこともたくさんあります。生活不安が広がる今、改めて生活者の政治を実現するために、共に頑張りましょう。



皆川満寿美

中央学院大学准教授

女性なら誰でもいいわけではありません！女性のエンパワメント、男女平等、ジェンダー主流化(男女共同参画)を高く掲げる「わきまえない女たち」のローカルパーティとしての「東京・生活者ネットワーク」の方々に、とても期待しています。



田中
さやか
さんを
応援
します

大村 究
堀 利和
藤田愛子
千葉愛一郎
長野一郎
岩永やす代
北野富江
三村りつ子
市川和子
井上八重子

羽田問題解決プロジェクト代表
視覚障害者・元参議院議員
一般社団法人生活サポート基金前理事長
東京・生活者ネットワーク元副議長
さよなら原発品川アクション会員
視覚障がい者で品川区初の社会福祉士
東京・生活者ネットワーク都議会議員
元品川区議会議員
元品川区議会議員
元品川区議会議員
品川・生活者ネットワーク代表/元品川区議会議員

多様性を認めあう ジェンダー平等社会を実現する！

GDP 世界第3位(2017年IMF)の日本ですが、「女性活躍」を掲げているにもかかわらず、男女間の格差を表すジェンダーギャップ指数ランキングでは、2012年101位、2021年120と順

生活者とりわけ女性の力を政治の場へと活動を開始して28年。議会報告に立つ品川ネットの区議会議員・左から田中さやか、いながき孝子、吉田ゆみこ。



位を下げ続けています。

働く人の4割が非正規雇用(うち7割が女性)となり、共働き世帯が多数派となっているにもかかわらず、妻の家事・育児時間は1日約7時間であるのに対し、夫はわずか1時間(2018年男女共同参画白書)。この間、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法、パート労働法、女性活躍推進法などが整備されてきましたが、女性だけでなく、長時間労働を強いられる男性の働き方を改革

しなければ、女性の負担は増すばかりです。

2018年、生活者ネットワークは、「ジェンダー問題プロジェクト」を組織し、東京に暮らす女性たちに聞く大規模調査を実施しました。介護や子育ての社会化の充実が喫緊の課題となっていますが、福祉的視点からだけでなくジェンダーの視点からも社会変革が問われていることが再確認されました。自己責任のもと、一方の性に負担や犠牲を強いるのではなく、社会の問題としてとらえ、政治・経済・社会のあらゆる分野の政策においてジェンダー平等を基盤とする、「ジェンダー主流化」を、ここ品川から推し進めます。



あなたの
ひとこと提案募集中！

品川・生活者ネットワーク

田中さやかの提案

私らしく 生きるための政治

私らしく
生きるための
政治

1. 子ども・若者の未来を拓く品川へ

- 子どもの育ちを応援する子どもの権利条例を制定する
- 子どもの相談・救済・回復をサポートする権利擁護機関を設置する
- 子ども・若者議会を実現し、子ども・若者の声を政策に反映する
- 保育の質を高め、かけがえのない「子どもの時間」をまもる
- 学校給食は完全無償化し、夏休み給食デイ・オーガニック給食デイをつくる

2. 高齢になっても障がいがあっても、誰もが暮らしやすいまち

- ケアする人もされる人も大切に「ケアラー支援条例」をつくる
- 合理的配慮を踏まえた「障がい児・者差別禁止条例」を制定する
- 医療・介護・障がい福祉をつなぐ横断型の相談体制をつくる
- 困窮者支援のワンストップ相談窓口と伴奏型支援を拡充する
- 地域包括ケアの拠点を整備・拡充し、世代を越えて在宅生活を支えるしくみをつくる

3. 私が私のままでいられるジェンダー平等社会へ

- ジェンダーの視点で政策を見直す！包括的性教育(人権教育)を進める
- 女性の人権を守る！被害の救済・支援のしくみを整える
- 女性も男性も生活者！ともに子育てできる環境を整える

4. いのちをつなぐ環境優先のまち

- 原発ゼロ・ストップ地球温暖化！省エネ・再エネ100%のまちを市民とともにめざす
- 食の安全確保は公給食から！遺伝子組み換え食品・ゲノム編集食品は使わない
- 健康と生命、住環境を脅かす羽田新飛行ルートは撤回！

- リニア中央新幹線はいらない！
- 福祉の視点で地域防災のしくみを見直し、女性の参画を増やす

5. 情報公開を進め市民が自治するまちをつくる

- 無作為抽出の市民ワークショップを政策立案に取り入れる
- 小中学校を通じて、シチズンシップ教育や労働・消費者教育を充実させる
- 公共施設の新設・建替えや都市計画道路の見直しは市民参画で！
- 参加と協働を実践する「自治基本条例」をつくる

生活者ネットワーク 3つのルール

- 1 議員は交代制(ローテーション)
- 2 議員歳費は市民の政治活動資金に
- 3 選挙はカンパとボランティアで

みなさまのカンパをお待ちしております
郵便振替口座 00130-9-161299 品川・生活者ネットワーク
★1,000円以上のカンパをいただいた方には、東京・生活者ネットワークが発行する生活と政治をつなぐ情報紙：月刊「生活者通信」を1年間お届けします。



STOP!
羽田新ルート

羽田新飛行ルート撤回を求めるアピール行動で街頭に立つ。左から品川ネットの区議会議員いながき孝子、吉田ゆみこ、田中さやか。2月23日大井町

